



# 第1回 実践交流会（東京）

多様性が活かせることばの教育実践  
－私の実践を語り・子どもの姿に学ぶ－

2025年10月4日

齋藤ひろみ・原瑞穂（東京学芸大学）  
河野俊之（横浜国立大学）

\* 実践事例紹介の手順(5枚目)を  
ご確認ください。

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

# 実践交流会 趣旨

日本語教育・支援の現場は、子どもたちも多様(言語・文化背景、来日の経緯や滞日期間、ことばの力や認知・学力の発達状態)であれば、教育・支援現場も多様(地域の多文化化の状況、組織・団体としての考え方、日本語教育・指導の仕組み、人的配置)、そして携わる者も多様(立場・教育経験・教育観・言語指導の知識・技能)です。その現場で、教員・支援員の皆さんは、子どもたちがことばを豊かに運用する力を高めるため創意工夫をして教育・支援活動を行っています。その皆さんが相互に実践を語り合い・学び合う場がこの実践交流会です。

自身の実践について語り、具体的なアイデアを共有するとともに、その背後にある子ども観、学習観、言語観を交差させながら、今後の実践を展開するための省察に基づく気づきと、新しい発想を得る空間にしたいと思います。参加される皆さんが、次なる「子どもたち・現場・教員の多様性が活きる実践」に挑む契機となれば幸いです。

# 実践交流 プログラム

1.開会  
趣旨説明  
13:00－  
13:10

2.実践事例  
報告  
13:10－  
14:20

3.休憩・準備  
14:20－  
14:30

4.実践交流  
14:30－  
16:00

5.振り返り  
16:00－  
16:30

## 実践事例報告

小学校における「JSLカリキュラム」の授業事例

東京都目黒区立東根小学校 主幹教諭 田中 寛子

中学校における道徳科の授業事例

岐阜県可児市立蘇南中学校 教諭 青山 岳史

# 実践の経験から学ぶ

## 学びの出発点: 経験

- ・自身の観察
- ・状況への参加の方法
- ・体系的に思考

⇒ **ALACTモデル**

既にある枠組みを用いながら  
経験から学んでいる  
・・・自覚化も必要

行為の選択肢の  
拡大 (Creating  
alternative  
methods of  
action)

経験による学びの  
プロセス (循環型)  
**ALACTモデル**  
(コルトハーヘン)

本質的な諸相への  
気づき  
(Awareness of  
essential  
aspects)

試み  
(Trial)

行為  
(Action)

行為の  
振り返り  
(Looking back on  
the action)

# 実践交流：事例紹介（グループで）

お一人の持ち時間 15分間

実践の紹介(5分)

1)取組(実践)の前の問題意識

子どもたち、あるいは教室の実態と設定した課題

2)取り組みの工夫

課題を解決するために具体的にはどのような工夫をしたか

3)結果

一定期間実施してみた結果、どうであったか

話し合い(10分) ★質問・コメントはこちらで

16:00～全体で振り返り

話し合いを通して気づいたこと

調整・修正しよう、新たにチャレンジしようと思ったこと



## 実践交流

# タイムテーブル

セッション1 14:45-15:30

実践内容に共通点がある、校種異

セッション2 15:30-16:15

実践内容・関わり方が異なる、校種同

## 経験からの学びの条件

= 実践交流への参加姿勢

- ① 安心して学べる  
(共感的に実践紹介を聞く)
- ② 挑戦に積極的になれる  
(「プラス面」を積極的にコメント)

⇒ 参加者主体のプロセス

# 交流グループ

セッション1		セッション2	
A	学校・学級 笠原・山田・山本(佐)	H	高校・中学校 富岡・高田・山本(晋)
B	クラスメートとのつながり 高田・樋口・古越	I	中学校 木幡・藤井・山田
C	安心できる環境 大橋・藤井・友成	J	中学校 呉・樋口・友成
D	多言語・アイデンティティ・自己実現 呉・佐久間・富岡	K	小学校 植田・山本(佐)・渡辺
E	多言語・アイデンティティ・自己実現 石原・植田・内野	L	小学校 笠原・佐久間・中村
F	教科と日本語の統合学習 小森・中村・山本(晋)	M	小学校 内野・大橋・倉本
G	日本語学級運営 倉本・木幡・渡辺	N	小学校 石原・小森・古越

# 留意事項：実践交流に参加するに当たって

- 1 実践紹介について、実践現場の責任者の許可を得ること(必要に応じて保護者や同僚、子どもからも)
- 2 発表内容に、既成の教材などを利用した実践がある場合は、その出典・出所を明記すること
- 3 交流会で知りえる個人情報(個人、学校、地域団体)については守秘とすること
- 4 交流会で紹介される教材等の創造物(知的財産)については、無断で利用しないこと

# 振り返りの視点

A decorative graphic on the left side of the slide. It features several hexagons: a large solid orange one at the top, a smaller white one with a red border below it, and a larger white one at the bottom. In the center, there is a photograph of several hands clasped together. Overlaid on this photo is a white hexagon with the Japanese text '振り返り' (Review/Reflection) written in red.

振り返り

- ①自らの枠組みや先入観(前提)の把握
- ②自らの実践についての新たな気づき
- ③他の方の実践から得たアイディア・考え方
- ④2学期に、挑戦してみようと思ったこと

# 振り返りの視点(付箋での活動で) ALACTモデルのに即して



振り返り

- ①自分の実践の新たな意味への気づき  
(行為の振り返り)
- ②想像していなかった子どもの姿を発見  
(本質的な気づきに向けて)
- ③実践のアイデアをありがとう  
(行為の選択しの拡大)

# アンケート記入のお願い

今後に向けて、ぜひともご協力ください。

<https://forms.gle/C8TseefAEAa3vqC4A>

よろしければ  
・・・実践の概略のウェブ上での紹介を

実践名（時間）

実践者（ご所属）

1 子ども

2 目標

3 活動

4 工夫

★可能であれば資料も（1枚）



ありがとうございました

